

2017年9月期 第3四半期決算説明資料

2017年8月10日

ステークホルダーの皆様へ

当社は、2017年8月10日に2017年9月期第3四半期決算を発表いたしました。**前期を大幅に上回る業績**を収めることができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と感謝しております。

当第3四半期のトピックスは、「**神戸市バスロケーションシステムのサービス開始**」、「**『情報掲示板A-ya』の販売開始**」、そして、「**日本発、革新的サイバーセキュリティ企業『Blue Planet-works社』の始動**」です。

当社グループが得意とする**自動車・車載器向けソフトウェア開発技術**並びに**通信技術を活用した汎用性の高いソリューション**、そして**I o T / I o E 社会において欠かすことのできない情報セキュリティ分野への布石**。これらに積極的に取り組んでまいりました。

さらに連結子会社シスウェーブは、「**I o Tセンサープラットフォーム 高分解測定モジュール**」を開発、各種センサーを取り付けるだけで**簡単にI o T環境が構築できるセンサープラットフォーム**の展開を始めました。

当社グループは、「**安心・安全・豊かな社会**」を実現すべく、「**自動運転**」、「**デジタルサイネージ**」、「**フィンテック**」、「**情報セキュリティ**」、「**VR/AR/MR**」、「**AI**」、「**ロボット**」等の領域に「**M&A戦略**」を加え、グループの拡大戦略を推し進めてまいります。引き続きご支援のほど宜しくお願い致します。

PCIホールディングス株式会社
代表取締役社長



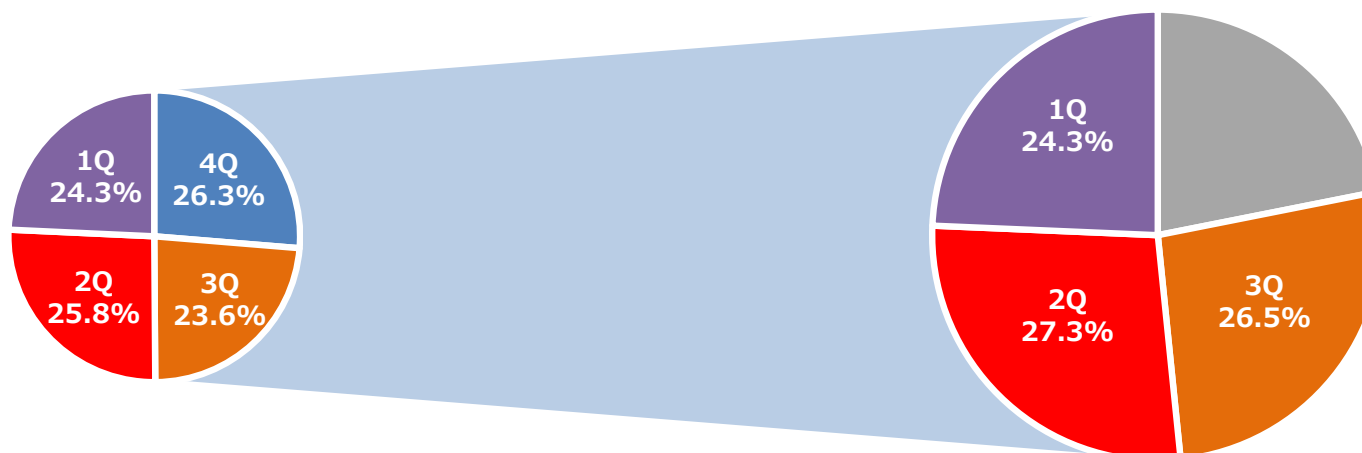
1. 既存事業の好業績に加え、M&Aの寄与により前期実績を大幅に上回る売上高 ⇒ P5

<2016/9 売上高>

通期実績： **8,504百万円** (前期比8.3%増)

<2017.2.6発表 2017/9期連結業績売上高 >

通期予想： **10,500百万円** (前期比23.5%増)



2. 引き続き「安心・安全・豊かな社会」の実現と、次世代技術の創出に向けた研究開発に注力 ⇒ P12~

- ・ 半導体の設計・テストに高い技術をもつ株式会社シスウェーブの完全子会社化
- ・ 車車間通信を可能にする「V2Xユニット」のソフトウェア開発。神戸市バス全車両での運用が開始
- ・ 総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワーク活用に関する研究会」への参画
- ・ 情報セキュリティ分野へ継続的に取り組む。株式会社ZenmuTechに加え、株式会社Blue Planet-worksへ出資

お陰様でPCIホールディングス株式会社は
東京証券取引所 市場第一部へ
上場いたしました。

PCIグループ

- PCIソリューションズ株式会社
- PCIアイオス株式会社
- Inspiration 株式会社
- 株式会社シスウェーブ** New!



1. 決算概要	3 ページ
2. 重点施策	11
3. 資本政策及び株主還元方針	28

4. 業績推移	31 ページ
5. 参考書類	35

1. 決算概要



- ◆ 昨年11月に完全子会社化した株式会社シスウェブが、売上高・利益とも、当社グループ業績へ大きく寄与。
- ◆ V2X技術を搭載したバスロケーションシステムが、今年4月1日より神戸市バスにおいて全路線にてサービス開始。
- ◆ 株式会社Blue Planet-worksへ出資。IoT/IoE社会におけるサイバーセキュリティ技術の向上だけではなく、セキュアなコミュニケーション環境の提供を目指す。
- ◆ 売上高は8,201百万円（前年同期比30.9%増）、営業利益は589百万円（前年同期比21.4%増）、経常利益は592百万円（前年同期比19.3%増）と、前年同期比を大幅に超過。

2017年9月期 第3四半期業績推移



(百万円)	16年9月期			17年9月期			通期計画	通期計画 進捗率
	上期 実績	第3四半期 累計実績	通期実績	上期 実績	第3四半期 累計実績	前期比		
売上高	4,262	6,268	8,504	5,422	8,201	130.9%	10,500	78.1%
売上総利益	1,033	1,531	1,981	1,324	1,967	128.4%	2,604	75.5%
(売上総利益率)	24.3%	24.4%	23.3%	24.4%	24.0%	-0.4%	24.8%	-
営業利益	372	485	590	437	589	121.4%	690	85.4%
(営業利益率)	8.7%	7.7%	6.9%	8.1%	7.2%	-0.5%	6.6%	-
経常利益	382	496	591	440	592	119.3%	695	85.3%
(経常利益率)	9.0%	7.9%	7.0%	8.1%	7.2%	-0.7%	6.6%	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	262	336	403	286	384	114.2%	450	85.4%
(当期純利益率)	6.2%	5.4%	4.7%	5.3%	4.7%	-0.7%	4.3%	-
EPS	78.07円	99.95円	118.79円	76.38円	102.39円	+2.44円	119.85円	-

()内は対前年同期比

エンベデッドソリューション

～前年に引き続き、好調に推移～

- 開発実績と自動車業界における先進技術を用いた **安全運転支援システムを搭載したスマート開発**等の好調な需要を背景に、**既存顧客からの安定した引き合いが継続**。
- 車載関連、重機・建機等の自動車産業向け組込み系ソフトウェア開発では、**カーナビゲーション等の車載情報案件が引き続き堅調に推移**。
- 車載制御案件受注拡大に向けた取り組みで、**車載系ECUにおけるモデルベース開発及びAUTOSAR開発案件の拡大、自動車向けチップセット開発案件**が増加し、総じて好調に推移。

当第3四半期における売上高構成比：**38.4%**

ビジネスソリューション

～BP強化で事業規模が拡大～

- **既存取引先との深耕拡大及び新規顧客の開拓**に努めるとともに、多岐にわたる顧客需要に応えるべく**ビジネスパートナーと更なるアライアンス強化**及び戦略的な利益率向上施策に取り組む。
- 企業向けソフトウェア開発においては、**金融機関向け案件が好調に推移**。
- 平成29年4月からの**都市ガス自由化によるシステム開発及び保守需要**を取り込み、売上に大きく貢献。

当第3四半期における売上高構成比：**41.0%**

IoT / IoE ソリューション

～自動車向け、エネルギー業界向けは好調に推移～

- 神戸市による「**市バスを情報通信基地とするバスロケーションシステム**」に利用される「**V2Xユニット**」を活用したソフトウェア開発の推進に注力。
- 自社製品である『**情報掲示板A - y a**』の**販売開始**等も堅調に推移。
- 自動車販売店向けソリューションにおいては、既存サービスの機能追加改修及び保守案件に加えて**ストックディスプレイの設置拠点が増加**し、いずれも好調に推移。

当第3四半期における売上高構成比：**6.6%**

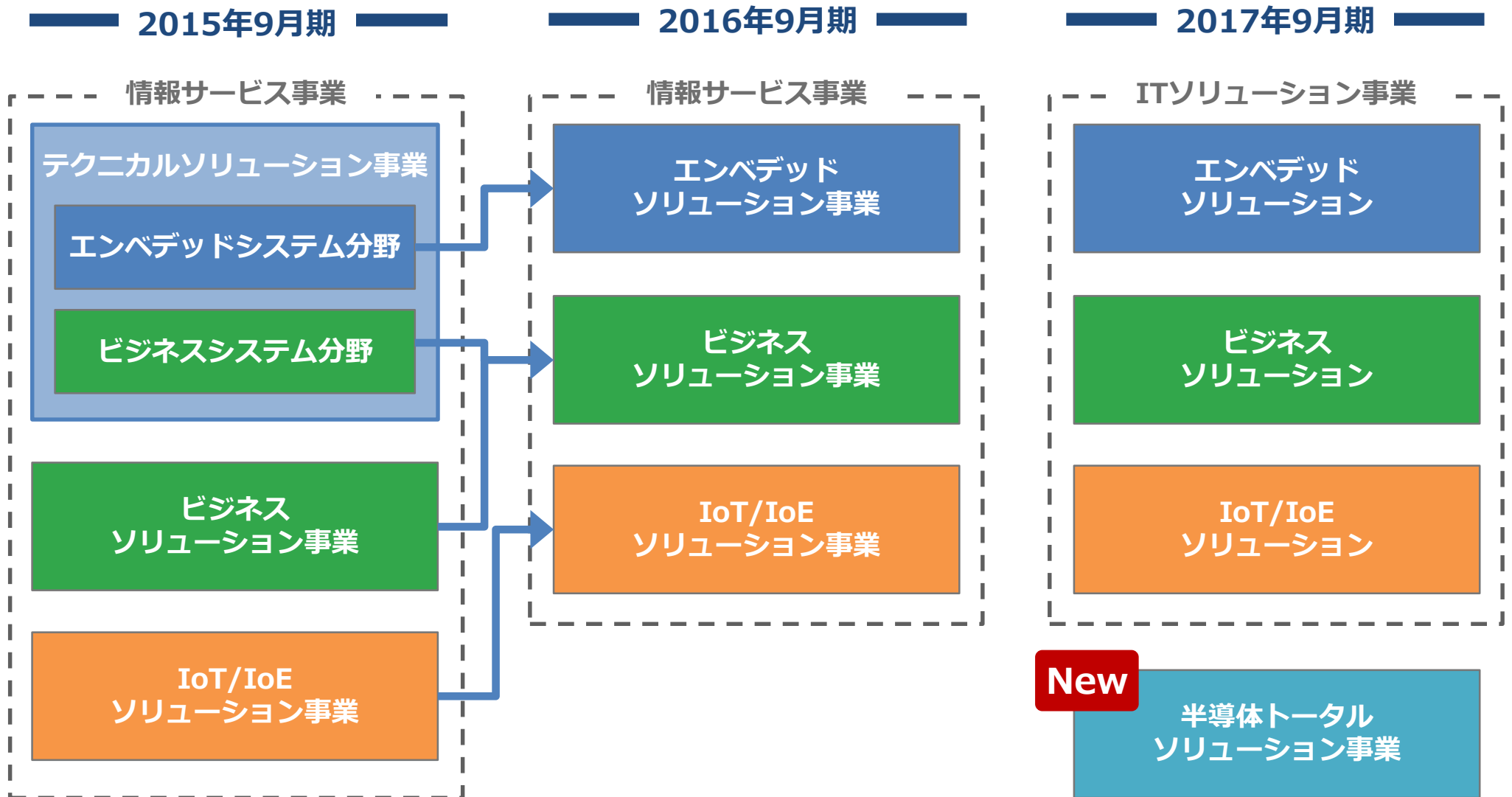
半導体トータルソリューション事業

～主要顧客からの引き合いが好調に推移～

- 国内外半導体市況の好調を背景に、**主要顧客からの継続的な受注**に加えて、**既存顧客深耕**による売上が伸長。
- 強みである**DFT技術に基づく回路設計**案件継続拡大。
- **テストセンター案件の受注が増加**する等総じて好調に推移。

当第3四半期における売上高構成比：**14.0%**

<参考資料> 事業区分の推移について

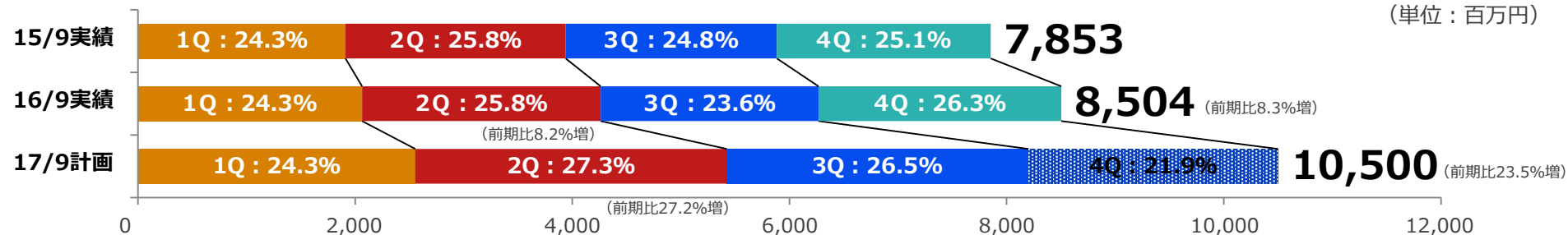


業績推移 (サマリー)

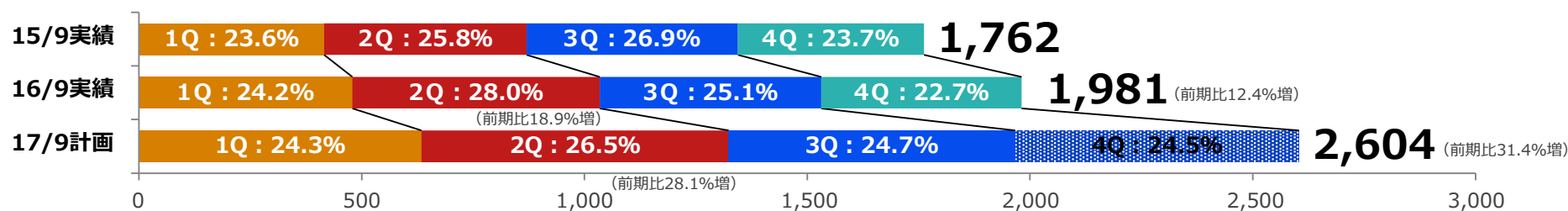


(単位：百万円)

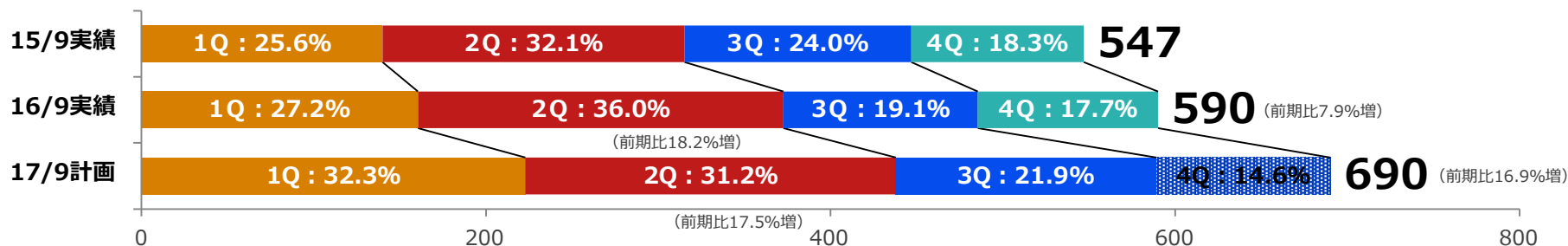
売上高



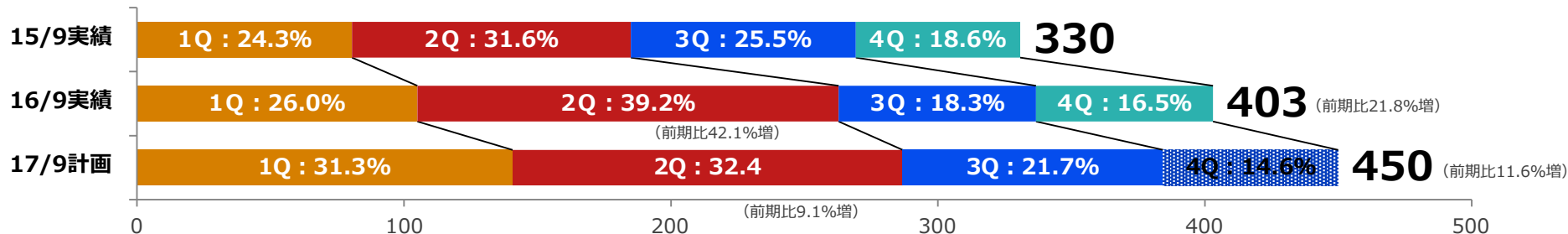
売上総利益



営業利益



当期純利益



連結貸借対照表



(百万円)	2016年9月期				2017年9月期		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q
流動資産	2,962	2,864	3,204	3,898	3,694	4,354	3,962
現預金	1,127	1,005	1,571	2,239	1,499	1,936	1,674
売上債権	1,587	1,567	1,346	1,419	1,884	2,010	1,936
その他	248	291	286	238	310	407	351
固定資産	310	470	476	480	628	642	923
資産合計	3,273	3,335	3,680	4,378	4,322	4,996	4,886
流動負債	1,105	1,005	1,258	1,119	1,090	1,614	1,399
仕入債務	438	303	284	282	324	420	390
その他	667	701	973	837	766	1,193	1,009
固定負債	77	82	99	103	122	127	133
負債合計	1,183	1,087	1,357	1,222	1,213	1,741	1,533
純資産合計	2,090	2,248	2,322	3,155	3,109	3,255	3,352
負債純資産合計	3,273	3,335	3,680	4,378	4,322	4,996	4,886

連結損益計算書



(百万円)	2016年9月期					2017年9月期				
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期計画
売上高	4,262	2,005	6,268	2,236	8,504	5,422	2,779	8,201	2,298	10,500
エンベデッドソリューション	2,000	980	2,981	1,129	4,111	2,054	1,092	3,146	-	-
ビジネスソリューション	1,834	872	2,706	913	3,619	2,200	1,160	3,361	-	-
IoT / IoE ソリューション	427	152	580	193	773	409	131	540	-	-
半導体トータルソリューション	-	-	-	-	-	758	395	1,153	-	-
売上原価	3,228	1,508	4,736	1,786	6,523	4,098	2,136	6,234	1,661	7,896
売上総利益	1,033	497	1,531	449	1,981	1,324	642	1,967	636	2,604
エンベデッドソリューション	463	225	688	212	901	487	225	712	-	-
ビジネスソリューション	426	220	647	184	831	457	233	691	-	-
IoT / IoE ソリューション	143	51	195	52	247	147	43	191	-	-
半導体トータルソリューション	-	-	-	-	-	231	140	371	-	-
販管費	661	384	1,045	345	1,391	886	491	1,378	535	1,914
営業利益	372	112	485	104	590	437	151	589	100	690
営業外収益	12	2	15	1	16	4	1	6	0	5
営業外費用	2	1	3	11	15	1	1	2	0	0
経常利益	382	114	496	95	591	440	151	592	102	695
税前利益	382	114	496	95	591	440	151	592	102	695
法人税等	119	40	160	28	188	153	54	207	37	245
親会社株主に帰属する当期純利益	262	73	336	66	403	286	97	384	65	450

※半導体トータルソリューション事業については、2017年9月期より追加された区分であるため、前期実績の内訳は掲載せず

2017年9月期4Qの数値は、通期計画より3Q累計値を差し引いて算出

2. 重点施策



1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、
キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』
- V2X『神戸市バスロケーションシステム』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya『情報掲示板A-ya』
- ZENMU/AppGuard

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- Amanekチャンネル
- V2X（車車間通信）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。
アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

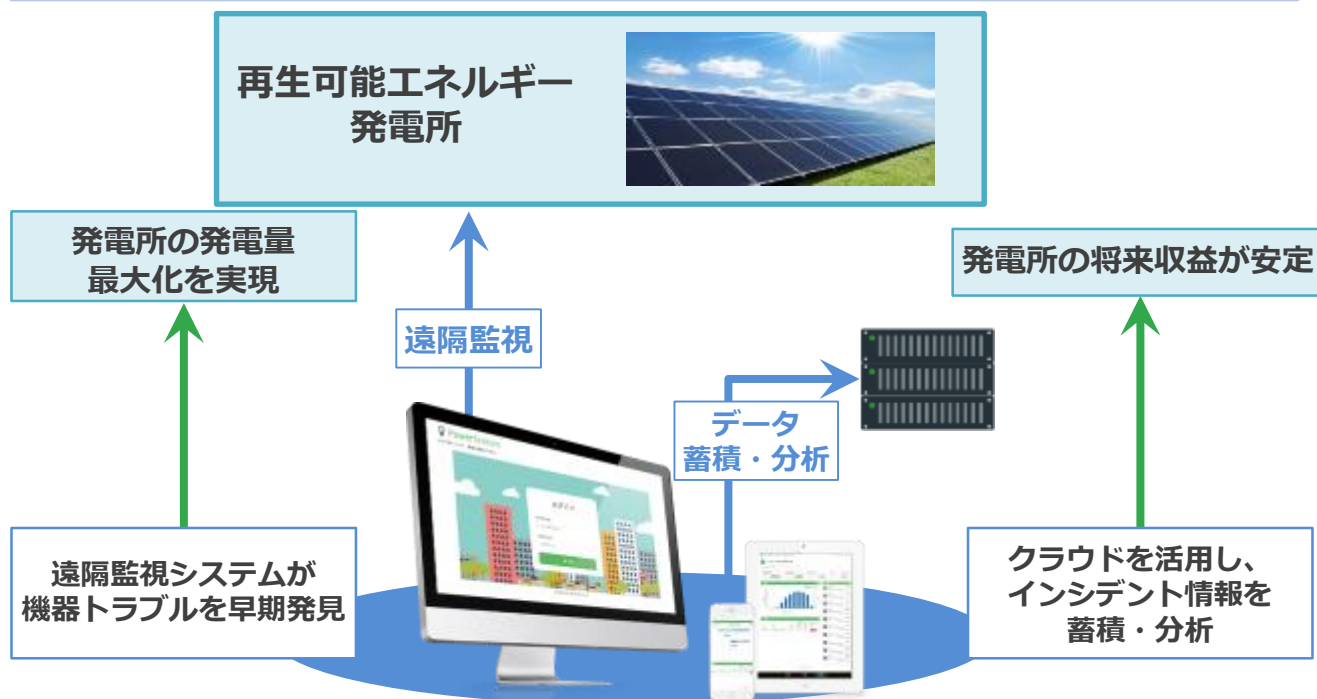
- 半導体トータルソリューション事業

Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（O & M業務）を支える統合管理システムです。当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- ・ 当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能
- ・ 大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（IT分野）の3社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富
- ・ 再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- スtring単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注状況

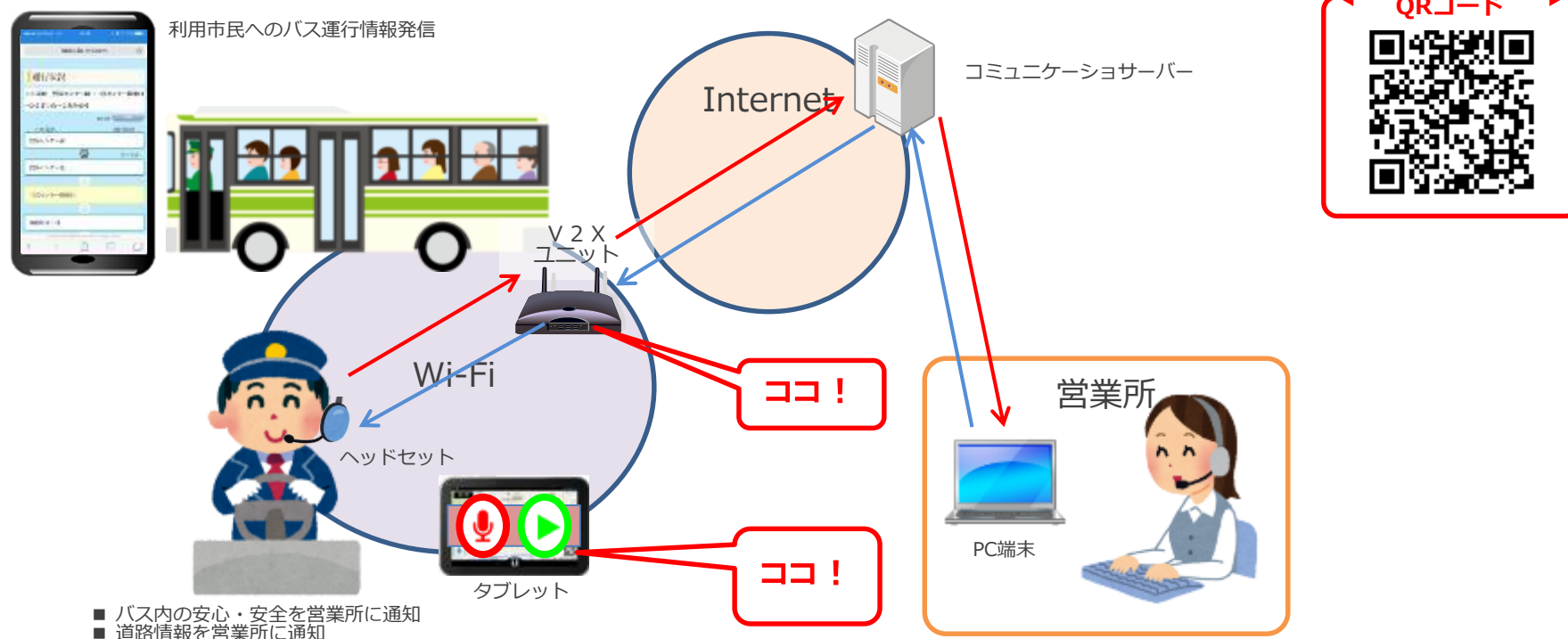
- 2015年9月 2拠点（実績）
- 2016年9月 4拠点（実績）
- ~2018年各期 3~5拠点（見通し）

神戸市「バスロケーションシステム」のサービス開始

- ☆ 2016年2月23日 **実証実験開始**（PCIソリューションズが「**実証事業主体**」として参画）
- ☆ 2016年4月18日 **第一段階の結果及び第二段階の実証実験発表**
- ☆ 2016年7月15日 神戸市交通局より
「バスロケーションシステムの**実証実験結果の報告**について」 **報告**
- ☆ 2017年3月31日 市バスの接近情報が確認できる**バスロケーションシステムのサービス開始発表**。
- ☆ 2017年4月1日 **全路線にてサービス開始**

☆実証事業主体

神戸市、一般社団法人Gateway APP Japan、本田技研工業株式会社、株式会社ゼンリンデータコム、ソフトバンク株式会社、**PCIソリューションズ株式会社**



(2016年7月より福岡・東京・大阪・東海地区・静岡にて放送開始)



V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V-Lowマルチメディア放送の特色

- ① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性
- ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報
- ③ 対象エリアでのみ受信できる、「エリア放送」が可能
- ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供

出資

B I C株式会社 ・i-dio全体を推進する持株会社
 主な株主：エフエム東京、産業革新機構、大日本印刷、パーク24、日本電気、東芝、日立国際電気、電通、博報堂DY

→ **株式会社VIP** ・放送法上の許認可取得
 ・巨額の設備投資を実施

→ **マルチメディア放送株式会社** ・放送業務を担当

北日本 MM	東京 MM	中日本 MM	近畿 MM	中国・四国 MM	九州・沖縄 MM
--------	-------	--------	-------	----------	----------

↑ コンテンツを提供

コンテンツプロバイダー

“日本初”モビリティ向けデジタルラジオ放送局
アマネク・テレマティクスデザイン社

出資



テクノロジー&コンテンツを持つ13社

当社の開発範囲

- ・車載器向け共通プラットフォームモジュール、スマートフォン向けアプリ、番組配信サーバ
- ・V-Lowマルチメディア放送コンテンツプロバイダーの『アマネク・テレマティクスデザイン社』へ出資

アマネク・テレマティクスデザイン
 コンテンツプロバイダー



ドライバーの「安心・安全」を目的に、今いるエリアのお役立ち情報を提供。



- 音楽情報
- 気象情報
- 交通情報
- 行楽情報
- 緊急放送
- 買い物情報

動画による
 説明ページ
 QRコード



V-Lowマルチメディア放送による新しいサービス

V-Lowマルチメディア放送『i-dio』による新しいサービス

☆ 2016年7月1日 **本放送**開始、福岡・東京・大阪、東海地区、静岡へもエリア拡大

☆ 2020年に**全国展開予定**

マルチメディア放送

音楽や音声を含めたあらゆるものを**デジタルファイル化**。
ファイルには、**位置情報を付加して**、放送という方式で
一斉同時配信を行う。

-  音楽
-  気象情報
-  交通情報
-  行楽情報
-  緊急放送
-  買い物情報



カーナビ・カーオーディオ



スマホ・タブレット



屋外サイネージ

2 優位確立ステージ

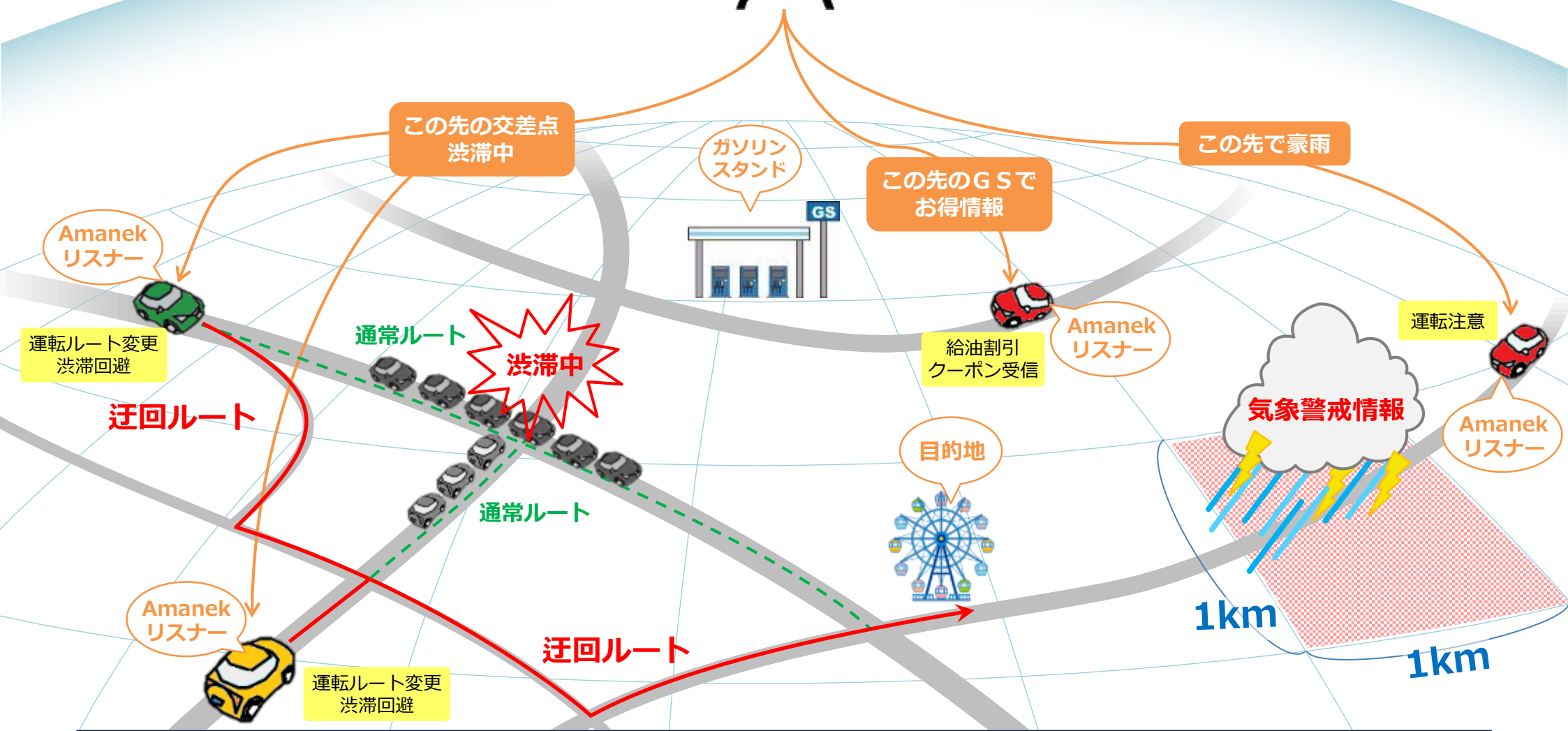
Amanekチャンネルが提供するサービスのイメージ



Amanekスタジオより
ドライバーに**15分後**の
交通情報やドライブ情報を提供。

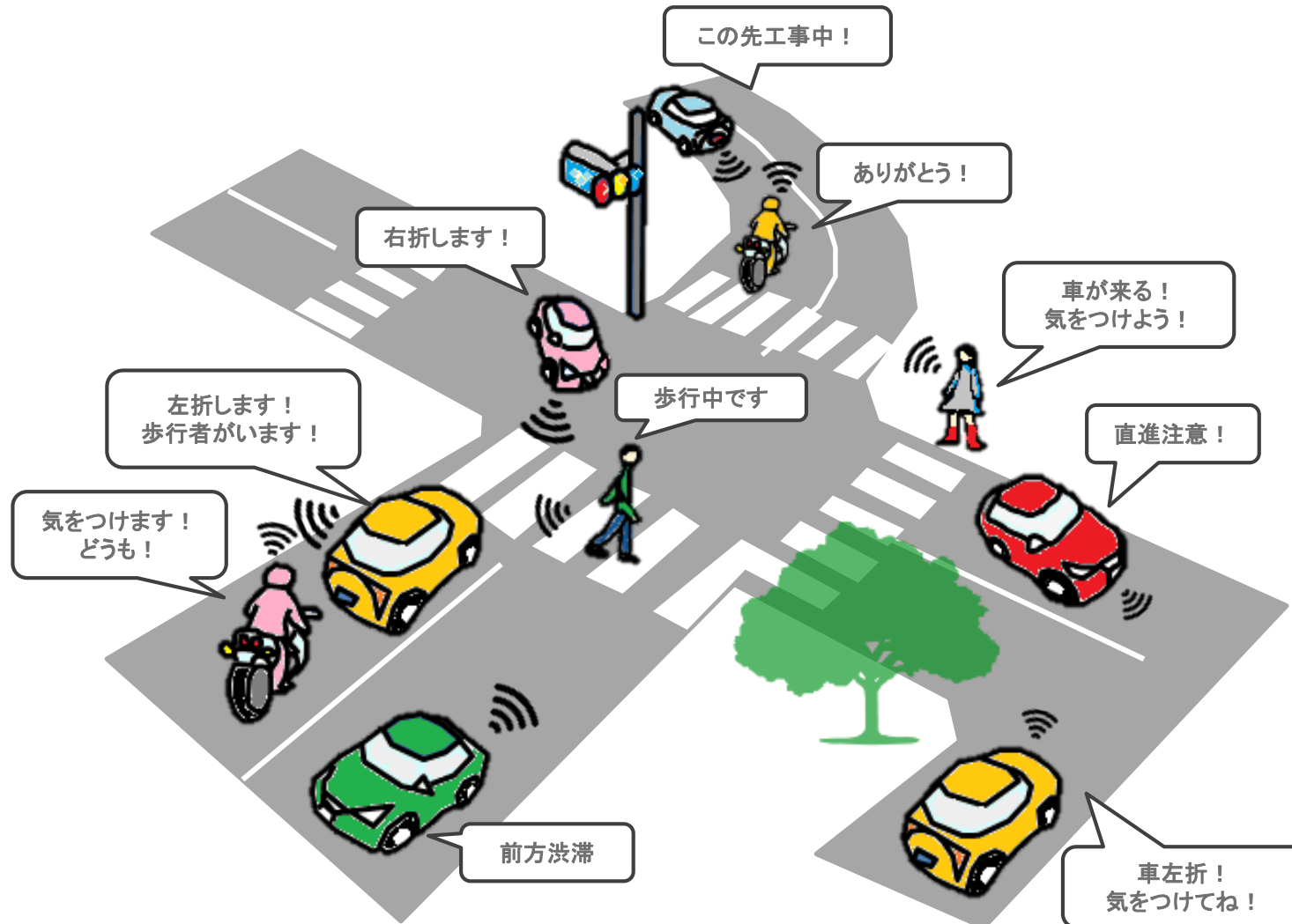


- ①V-Lowマルチメディア放送は、輻輳がない。
- ②ユーザーのGPS情報から**1kmメッシュ**での最適な運転情報を提供。



V 2 X (Vehicle to X) : 車車間通信

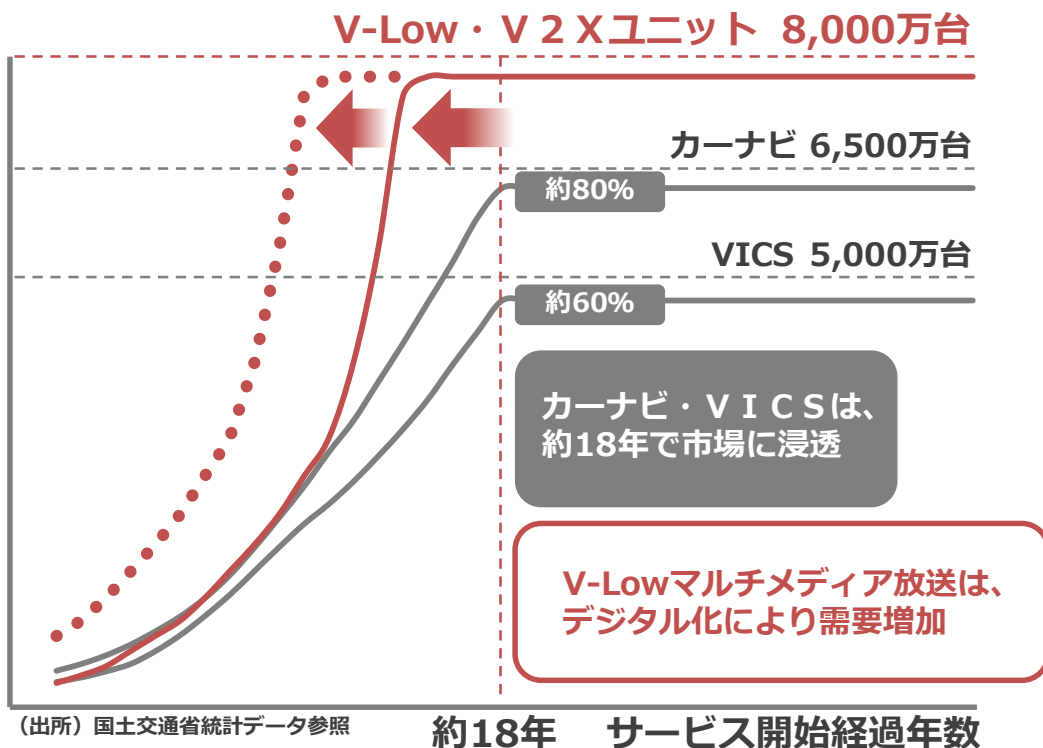
V 2 Xとは、自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やもの (X) とを通信でつなげること。当社はV 2 Xを実用化する為の**V 2 Xユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン (会員: 35企業・団体 4自治体 2016年3月15日時点) を通じてV 2 Xを活用した新サービスをお客様へ提案しています。



V-Lowマルチメディア放送、V 2 Xユニットの市場規模

【普及台数の市場浸透イメージ (注)】

サービス導入車数



想定市場規模

4輪：7,750万台

2、3輪：365万台



合計 約8,000万台

(出所) 一般社団法人 自動車検査登録情報協会HP

バス・タクシー向けV 2 Xユニット活用

【バス保有台数】

ランク	社名	台数
1	神奈川中央交通	1,964
2	西日本鉄道	1,928
3	東京都交通局	1,452
4	北海道中央バス	1,150
5	名古屋市	1,032
6	阪急バス	938
7	国際興業	907
8	東急バス	892
9	西武バス	852
10	京成バス	796
25	神戸市交通局	518
国内総計		48,995

(出所) 国道交通省統計データ参照

【タクシー台数】

区分	事業者数	台数
法人	15,271	203,943
個人	39,304	39,304
合計		243,247

※個人は1人1車制

※車両数は、管理課「自動車保有車両数月報」による

(出所) 一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会

2016年11月30日 株式会社シスウェーブを子会社化

シスウェーブ



<http://syswave.jp/>

半導体トータルソリューション

テスト、アナログ、画像処理をコアコンピタンスとして、LSI設計・テスト、FPGA、システム機器、ソフトウェア開発まで、さまざまな製品開発に先進のテクノロジーを提供。



「車載」分野でのシナジー効果！

総務省主体の「非常時のアドホック通信ネットワークの活用」

- ☆ 2016年1月20日 **研究会開催**の報道発表
- ☆ 2016年1月26日から開催され、同年6月29日に「**中間取りまとめ**」が公表
- ☆ 2017年夏以降に**実証実験開始予定**

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」を開催。

☆ **主な検討事項**

- (1) 災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケース**と、**その実現手段**
 - (2) アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
 - (3) アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性** 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」メンバー

☆研究会構成員

(主査)東京工業大学大学院 理工学研究科 教授	高田 潤一
-------------------------	-------

東京大学 生産技術研究所教授	大口 敬
----------------	------

(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所 ディペンダブルワイヤレス研究室長	三浦 龍
---	------

(株)トヨタIT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー	大西 亮吉
-------------------------------	-------

本田技研工業(株)四輪事業本部 事業企画統括部 グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師	大石 康夫
--	-------

(株)NTT ドコモ R&D イノベーション本部 サービスイノベーション部 担当課長	堀口 賞一
---	-------

ソフトバンク(株)プロダクト本部 法人プロダクト企画部 プロダクト企画3課 課長	松本 善徳
---	-------

(株)KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当	田中 英明
--------------------------------	-------

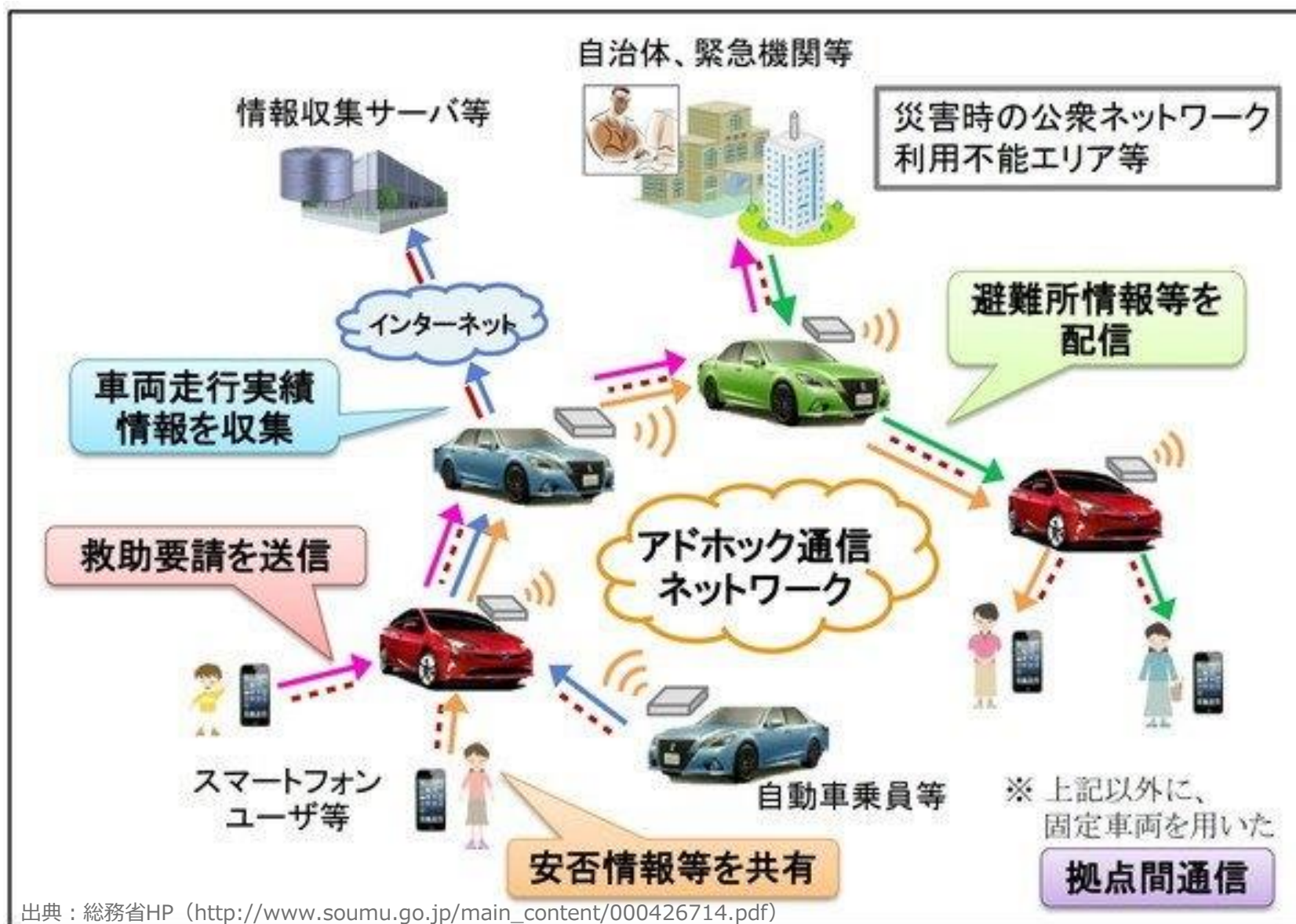
日本電気(株) システムデバイス事業部 技術部長	渡邊 敏博
--------------------------	-------

沖電気工業(株)社会システム事業本部 交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 部長	浜口 雅春
---	-------

PCI ソリューションズ(株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長	清宮 幸夫
--	--------------

(順不同、敬称略)

総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」に構成員として参画



出典：総務省HP (http://www.soumu.go.jp/main_content/000426714.pdf)

コミュニケーションツール「A-ya」 (商標登録/特許取得済み)

ヒトとあらゆるモノを結びつける
IoT時代に最適な
コミュニケーションツール

A-ya



特徴

- BLE技術を使い、低消費電力で稼働します。
- 双方向通信を実現。
- 出力調整により有効通信範囲を可変できます。
- ビッグデータの収集ポイントとして活用可能。
- ヒト側、モノ側それぞれにSDKを準備。
- 最少開発期間で既存システムに組み込み可能です。



いまや多くの人が持つスマートフォンをヒト側のインターフェイスとして位置付け、身の回りにある様々な機器と能動的にコミュニケーションをとることで、便利で快適な日常を創りだすことを目的に開発されたのが、『A-ya』です。

活用事例



①通常時
サインボードにあらかじめ保存されているコンテンツを順次表示



②オーディエンス接近時
A-yaアプリをインストールしたスマートフォンなどの端末が接近すると、興味リストに応じて、サインボードへの表示内容を変更。



⑤情報表示
URLタップで、目的の情報ページ(ランディングページ)を表示

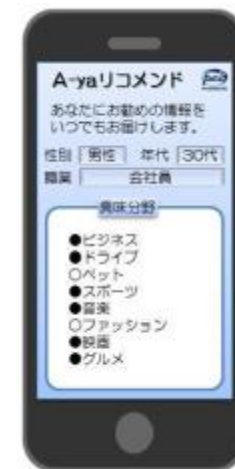


④ボタンをポン
気になる情報はA-yaボタンで。URLをスマートフォンに送信



③スマホPush
サインボードに興味ある情報が表示されていることを、スマートフォンにPush通知

初期設定画面例



※画面は一例です。デザインや興味分野はカスタマイズ可能です。

自社製品『情報掲示板 A-ya』の展開について

P C I ソリューションズの特許技術

「ヒトとモノをつなぐ“A-ya”の技術」を応用したデジタルサイネージ製品

<導入事例Ⅰ>

昭和西川様の店舗内へ「店舗・店頭向け情報掲示板“A-ya STB”」をテスト設置。

直営店舗への導入を提案中。特徴は以下3点

- ① 画面上に表示されるテロップを、スマートフォンで手軽に変更可能
- ② コンテンツの入れ替えが非常に簡単
- ③ 市販の液晶テレビを情報発信機器として使用可能

<導入事例Ⅱ>

新銀行東京様行内へ「金融機関向けデジタルサイネージ」

(= Financial Digital Signage = **F.D.S.**) をテスト設置

- ① 来行者ユーザビリティの向上
- ② 即時的金融商品の紹介・検索
- ③ エリア別気象・緊急情報の配信等 についてテストを実施

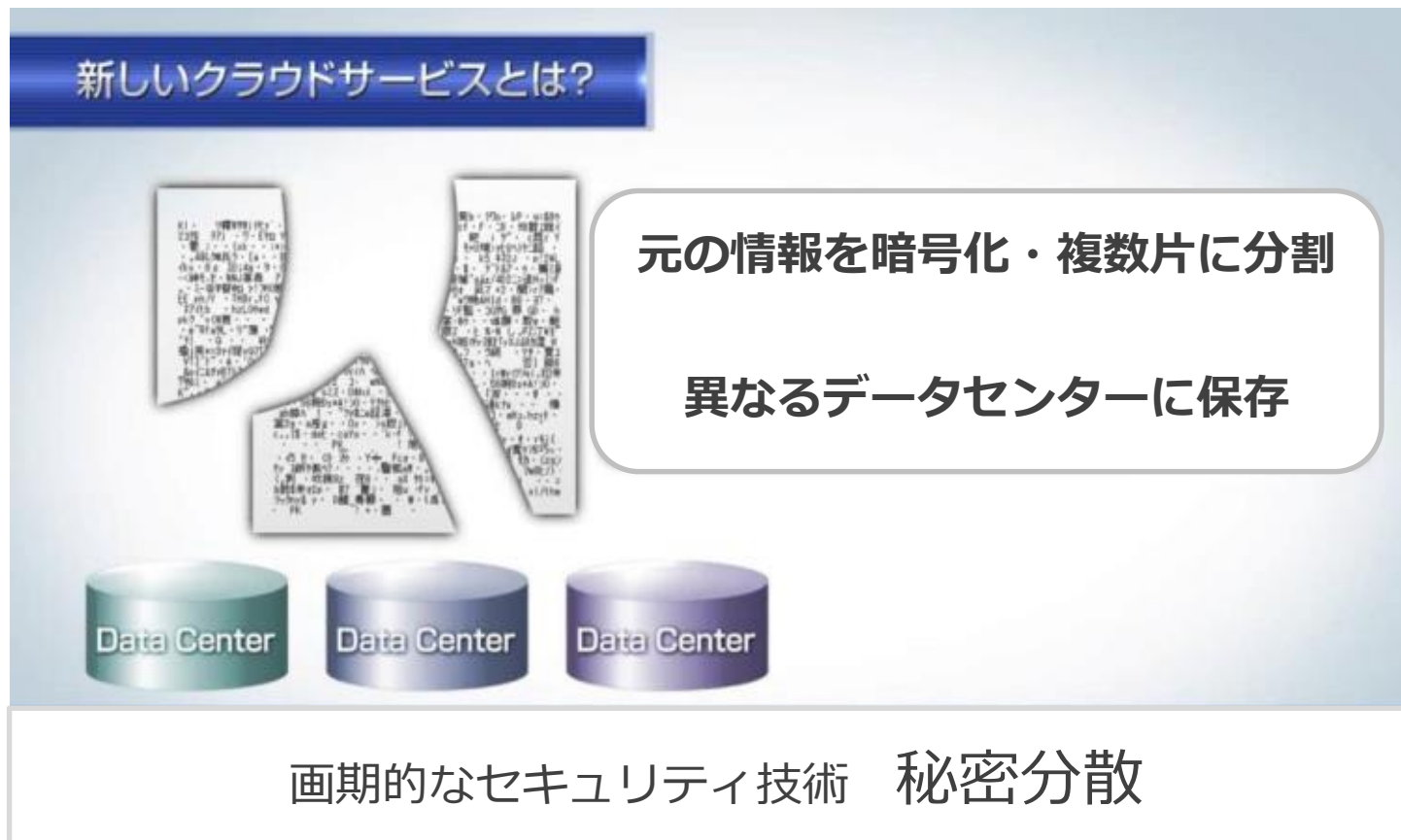
今後、国内金融機関向け『F.D.S.コンテンツの開発』に共同で取り組み、蓄積された各種ノウハウを他金融機関のF.D.S.へ展開予定。



情報セキュリティ『ZENMU』

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社ZenmuTech（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。ZenmuTech社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「ZENMU（ゼンム）」（以下、ZENMU）を開発しております。ZenmuTech社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてZENMUの取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。

※2017年2月1日より、株式会社TCSIは、株式会社Zenmuへ社名変更いたしました。また、商品名を「PASERI」より「ZENMU」へ変更しております。





情報セキュリティ『株式会社Blue Planet-works』へ出資

I o T / I o E 社会における**サイバーセキュリティ技術の向上**のみならず、**セキュアなコミュニケーション環境**の提供により、「**安心・安全・豊かな社会の実現**」への貢献を目指し、**株式会社Blue Planet-works**へ出資

「AppGuard®」テクノロジーについて

<特 徴>

- ① **未知のマルウェアをブロック**
- ② **完全防御**
- ③ **18年以上破られたことのない実績**

<採用実績>

- ① 米国・州政府関連・・・**アメリカ合衆国国土安全保障省、アメリカ連邦航空局**
- ② 米軍及び特殊任務関連・・・**アメリカ国防総省、米国防省** その他、**米国情報機関等**

<顧 問> (敬称略)

黒川 清 (政策研究大学院大学名誉教授)

村井 純 (慶應義塾大学環境情報学部長・教授)

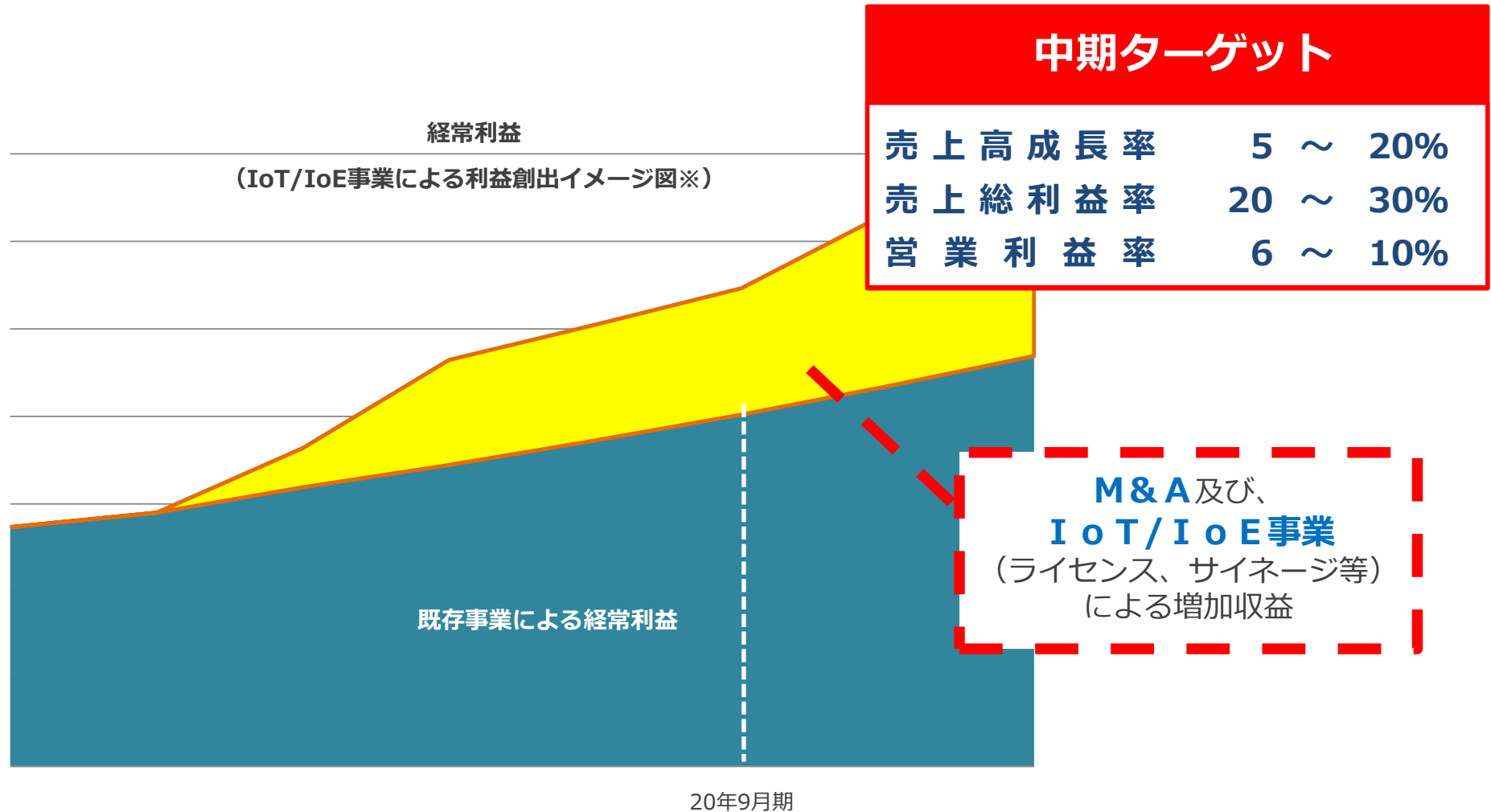
出井 伸之 (クオラムリーブ株式会社 代表取締役)

※今後当社は、**Blue Planet-works社**製品「AppGuard®」の「**販売契約締結**」を**予定**しており、「ZENMU」と合わせ、**I o T / I o E 社会における情報セキュリティ分野の充実**を図る

【主要株主】ANAホールディングス株式会社、第一生命保険株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、株式会社電通、株式会社電通国際情報サービス、大興電子通信株式会社、**PCIホールディングス株式会社**、KeepTree, Inc.、他 (同社記載順)

3. 資本政策及び株主還元方針





※ IoT/IOE事業による利益創出イメージ図は、現在織り込んでいないM&A、V2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送、デジタルサイネージ等の新しい取り組みによる収益を反映させた予想値をグラフ表示しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、当社計画値を表すものではありません。

株主還元方針

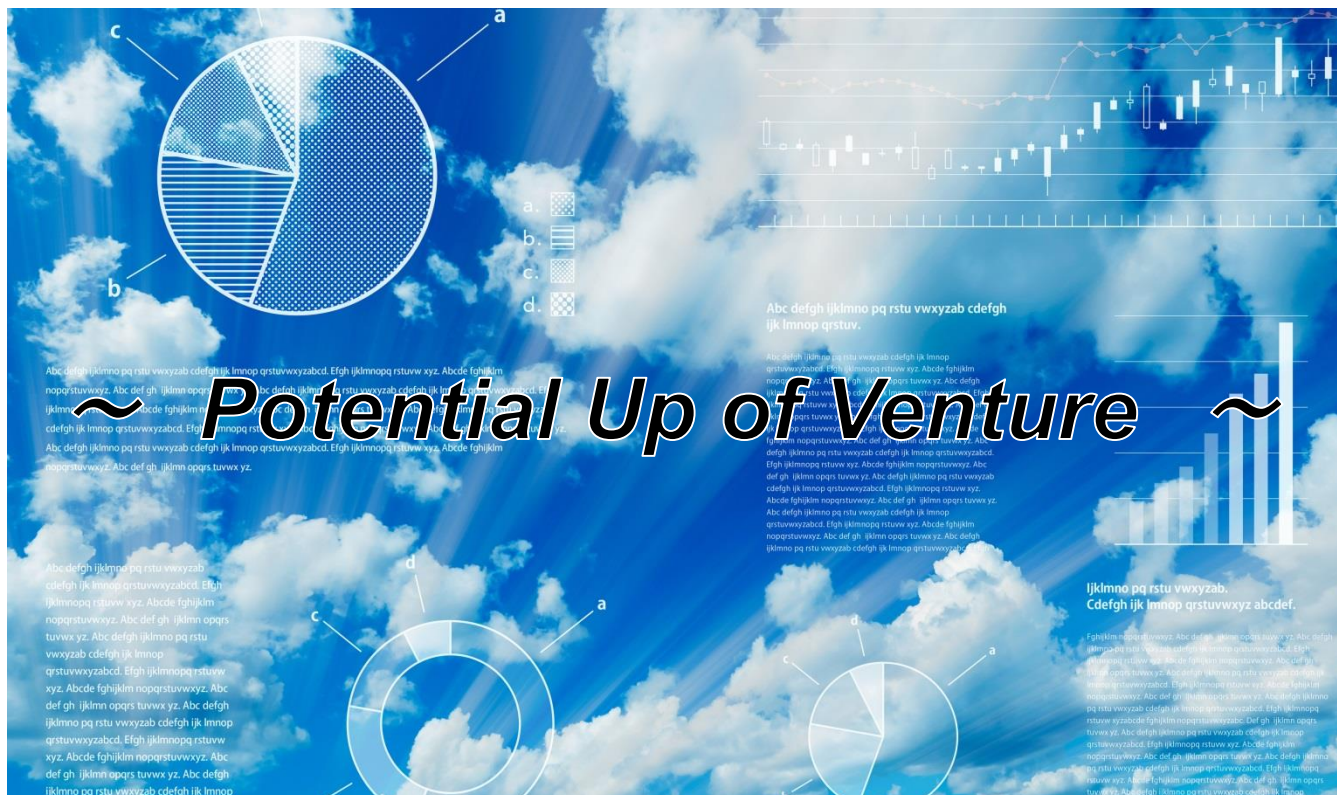
安定した配当を維持継続し、業績に裏付けられた更なる配当水準の向上
[連結配当性向：30%～50%を目安とする]

配当推移

	2013年9月期 (実績) (未上場時)	2014年9月期 (実績) (未上場時)	2015年9月期 (実績)	2016年9月期 (実績)	2017年9月期 (予想)
年間配当金	32.5円	35円	40円 (普通配：35円) (記念配：5円)	50円 (普通配：40円) (記念配：10円)	50円 (普通配：50円)
配当性向	—	—	34.0%	42.1%	—

(注) 平成27年3月23日付で普通株式1株につき100株、平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
 上記記載の年間配当金は、分割換算後の数値を記載しております。

4. 業績推移



2016年9月期 連結貸借対照表



(百万円)	2015年9月期				2016年9月期			
	1 Q (参考)	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864	3,204	3,898
現預金	819	700	790	1,489	1,127	1,005	1,571	2,239
売上債権	1,361	1,446	1,305	1,270	1,587	1,567	1,346	1,419
その他	238	304	262	327	248	291	286	238
固定資産	330	323	330	198	310	470	476	480
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005	1,258	1,119
仕入債務	338	211	198	230	438	303	284	282
その他	1,119	1,164	1,001	866	667	701	973	837
固定負債	61	65	70	74	77	82	99	103
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183	1,087	1,357	1,222
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090	2,248	2,322	3,155
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378

※2015年9月期第1四半期は、参考数値。

2016年9月期 連結損益計算書



(百万円)	2015年9月期			2016年9月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,938	3,914	7,853	4,262	4,242	8,504
エンベデッドソリューション事業	-	-	-	2,000	2,110	4,111
ビジネスソリューション事業	-	-	-	1,834	1,785	3,619
IoT / IoE ソリューション事業	-	-	-	427	346	773
売上原価	3,068	3,022	6,090	3,228	3,295	6,523
売上総利益	869	892	1,762	1,033	947	1,981
エンベデッドソリューション事業	-	-	-	463	438	901
ビジネスソリューション事業	-	-	-	426	405	831
IoT / IoE ソリューション事業	-	-	-	143	103	247
販管費	554	660	1,215	661	729	1,391
営業利益	315	231	547	372	217	590
営業外収益	8	2	11	12	4	16
営業外費用	2	11	13	2	12	15
経常利益	321	223	544	382	209	591
税金等調整前当期純利益	320	192	512	382	209	591
法人税等	135	46	181	119	68	188
親会社株主に帰属する当期純利益	184	145	330	262	140	403

※2016年9月期より売上区分をサービス提供形態から技術特性分類へ区分変更を行ったため、前期売上・売上総利益実績の内訳は掲載しておりません。

2016年9月期 連結キャッシュ・フロー計算書



(百万円)	2015年9月期		2016年9月期	
	上期	通期	上期	通期
営業活動によるCF	△ 297	250	△ 160	334
税金等調整前当期純利益	320	512	382	591
減価償却費	17	32	16	34
のれん償却額	2	5	1	3
売上債権の増減額	△ 244	△ 68	△ 297	△ 149
たな卸資産の増減額	5	△ 1	2	1
仕入債務の増減額	45	64	73	51
その他	△ 445	△ 295	△ 340	△ 199
投資活動によるCF	△ 22	56	△ 195	△ 212
有形固定資産の取得	△ 8	△ 12	△ 0	△ 3
投資有価証券の取得	-	△ 10	△ 185	△ 185
その他	△ 13	79	△ 9	△ 23
財務活動によるCF	14	275	△ 128	628
長短借入金の純増減額	110	△ 250	-	-
株式発行による収入	-	636	5	773
配当金の支払額	△ 95	△ 95	△ 133	△ 133
その他	△ 0	△ 14	△ 0	△ 11

5. 参考資料

- 会社概要 **概要**
- 事業解説 **解説**



企業理念

我々は、**お客様の満足**を通じて
全社員の幸せを追求し、
そして**社会の発展**に貢献します。

行動方針

- 安定した事業成長を実現します
- ユーザに適したソリューションを提供します
- 応援して頂ける企業を目指します
- 積極的（**P**）に変化（**C**）を求め、革新（**I**）します
- 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

(注) **P** : Positively **C** : Change **I** : Innovate

PCIホールディングス (純粋持株会社) 設立：2005年4月

PCIアイオス

代表者： 関谷 恵美
柴田 敦
設立： 2002年12月
資本金： 4,500万円

PCIソリューションズ

代表者： 天野 豊美
設立： 2012年9月
資本金： 3億6,000万円

Inspiration

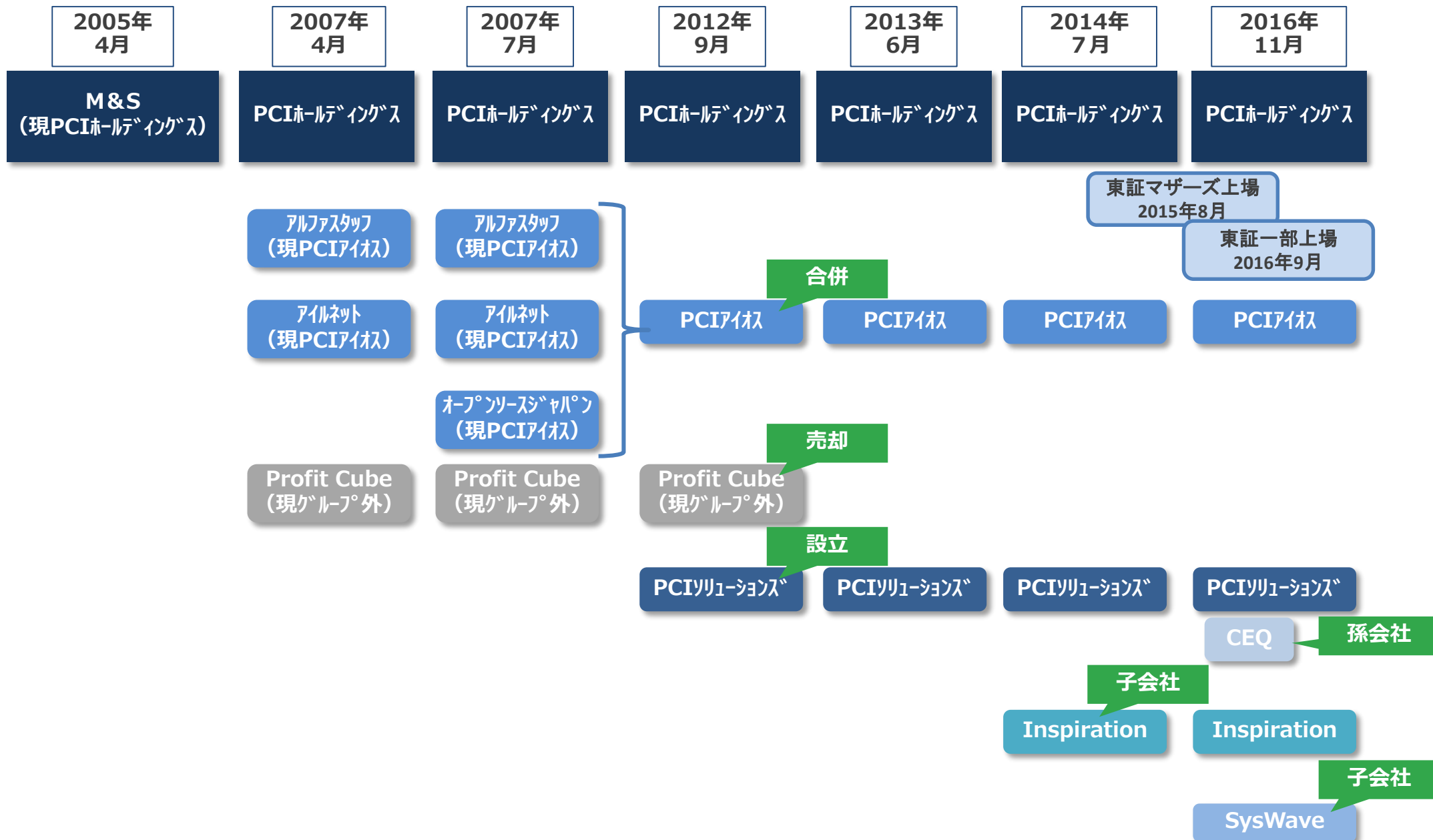
代表者： 岩橋 正治
設立： 1997年11月
資本金： 3,000万円

シスウェーブ

代表者： 西村 光太郎
設立： 2012年2月
資本金： 9,000万円

会社の事業内容について ～ グループ沿革 ～

概要



PCIホールディングス株式会社がグループ事業会社を経営管理することにより事業成長を加速させます



PCIソリューションズ

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

当社グループの連結売上高の約90%を占めるソフトウェア開発事業会社。

参入障壁が高いといわれる自動車産業向け、通信端末、情報家電等の様々な電子機器を制御する組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み。一般事業法人向けソフトウェア開発においては、幅広い分野でお客様の需要に応えている。

システム開発だけでなくIT人材の育成を目的に教育にも力を入れ、システムと人の両面から顧客に最適なソリューションを提供。

加えて、組込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発で培った技術を基に、自動車産業関連のIoT/IoEソリューションへも展開している。

PCIアイオス

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

オープンソースソフトウェアを活用した、短期間且つ高品質な開発を得意とするソフトウェア開発事業会社。

オープンソースソフトウェアによるITシステム構築需要に応える他、業種特化した自社開発ソフトウェアパッケージを有し、その販売ならびに当該業種の業務知識を活用したコンサルテーションも実施。オープンソースソフトウェアとクラウドのノウハウを活かした再生可能エネルギー関連データ収集IoTデバイスや収集したデータ分析を行う。クラウド運用サービスまで一括して受託するビジネスを担う。

Inspiration

IoT/IoE
ソリューション

少数精鋭による高スキルエンジニア集団のソフトウェア開発事業会社。

自社で開発した開発フレームワークを活用した短期間開発が特色。自動車販売店向けソフトウェア開発を得意としており、特にIoT/IoEソリューションとしてのWebサービスの構築・販売に強みを持つ。自動車業界における豊富なサービス運用実績より生み出されたノウハウを基に、システム開発、Webデザイン、コンテンツ制作、ヘルプデスク業務をワンストップで提供している。

シスウェーブ

半導体トータル
ソリューション

LSIの世界を支えるテストエンジニア企業。

テスト、アナログ、画像処理をコアコンピタンスとして、LSI設計・テスト・FPGA、システム機器、ソフトウェア開発まで、様々な製品開発に先進のテクノロジーを提供している。



シスウェーブ社の
高度な半導体技術

さらなる新規事業分野を開拓

当社グループの位置付け

エンベッドソリューションの開発実績を背景にIoT関連開発を行う。
参入障壁は極めて高い。

製造会社との深いリレーションによる受注。顧客企業との共同開発も実施。
参入障壁は高い。

主に大手SIerから当社が得意とする分野の開発を受注。
参入障壁は高くない。



IoT / IoEソリューション

- 自動車業界およびエネルギー業界向けIoTソリューションを開発。

エンベッドソリューション

- 自動車、重機・建機、車載器、情報家電、モバイル端末、ネットワーク機器などの組込みシステムにかかるソフトウェアを開発。

ビジネスソリューション

- 金融、製造業、交通、放送等の幅広い業種へのITシステムを構築。
- ビジネスアプリケーションの開発およびその付随業務を展開。

成長分野

収益基盤
(安定成長)

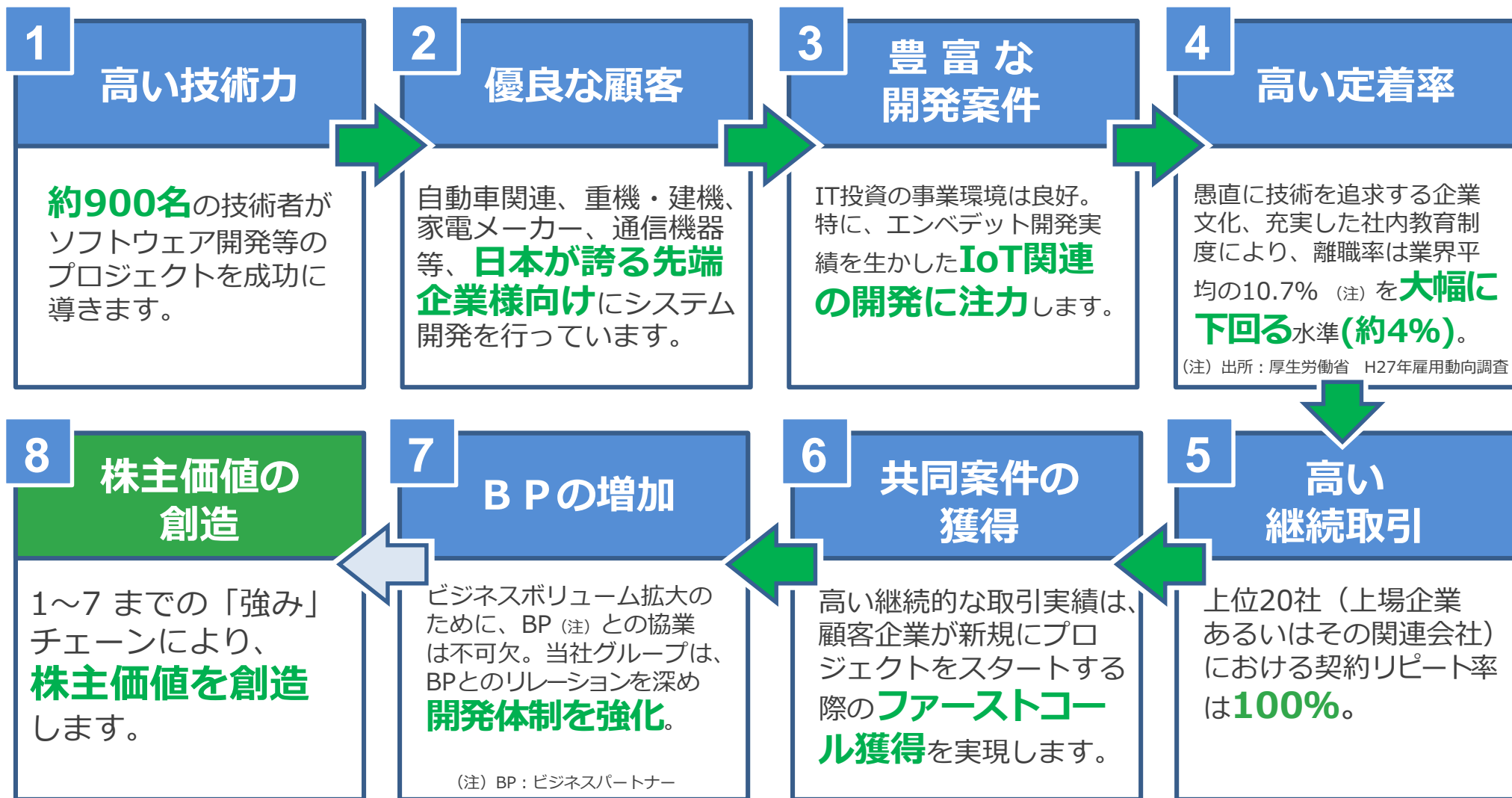
高い技術力の
源泉

PCIホールディングスの事業基盤

技術力 「ソフトウェア開発力」 × 「アプリケーション開発力」 × 「通信・組込み・半導体」

知的資本 「豊富な開発実績」 × 「優良な顧客」 × 「モラルの高い社員」 × 「プロジェクト管理体制」





(注) 各データは、2016年9月期末時点のもの

- ・エンベデッドシステム（組み込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。
- ・身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。
- ・このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組み込み制御技術を応用したものが、IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。

お客様（主に製造業者）

〇〇な機能を開発して欲しいなあ



要件定義・基本設計

開発事例

カーナビ



- ・タッチパネルで画面を切り替える機能

自動車



- ・アクセルを踏むとガソリン噴射量を制御する機能
- ・エンジン、エアコン等の制御機能
- ・センサーによる自動駐車機能

スマートフォン タブレット



- ・ディスプレイ表示の仕組み
- ・アプリケーションの基盤
- ・データ通信機能
- ・電波を切替える機能 等々

デジタルカメラ



- ・画面上的アイコン・ボタンメニュー等を操作する機能
- ・シャッターを押してフォーカスを合わせる機能
- ・画像処理機能 等々

製品にチップセット組み込み

納品

発注

高い参入障壁

製造業者はリコールリスクを回避するため実績・信頼ある企業にのみ発注

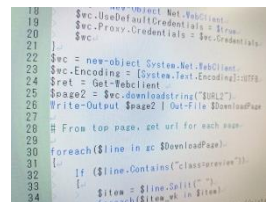


システム開発

詳細設計

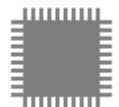
プログラミング

テスト



開発したプログラムをチップセットに格納

チップセットとは、ある機能を実現するための集積回路の組み合わせのこと。ソフトウェアの開発力でハードの複雑な機能を実現する。



多岐にわたる機能を必要とする機器のシステムは、最先端技術を駆使し、複数のハードウェア・ソフトウェアを組み合わせ開発しています。

※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

V-Lowマルチメディア放送は、V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態です。

V-Lowマルチメディア放送の特色	<ul style="list-style-type: none"> ① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性 ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報 ③ 放送地域を分割し、各エリアでのみ受信できるエリア放送も可能 ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供
--------------------------	--

	インターネット	マルチメディア放送
送受信	混雑時等に利用できない可能性有	輻輳（パケ詰まり）なし
配信	プル型配信必要な情報だけを取得	強制プッシュ配信も可能
	従来の放送 テレビ・ラジオ・県域放送	V-Low マルチメディア放送
放送エリア	県域放送	地方ブロック
ハード/ソフト	一致	分離
端末	テレビ受像機 ラジオ受信機	車載器・サイネージ・ 携帯電話（スマホ）
ビジネスモデル（収益源）	広告	多彩なビジネスモデル

（出所）エフエム東京HP等より作成

事業参入の狙い

- ・ 車載器メーカーを中心に、デジタルが進む自動車関連業界との関係強化
- ・ 放送と通信の融合による最新サービス開発に携わる事で先行者メリットを享受
- ・ 放送、デジタルサイネージといった新分野への参入を通じた事業領域の拡大

当社の事業範囲

- ・ 車載器向け共通モジュール
- ・ スマートフォン向けアプリ
- ・ 番組配信サーバ
- ・ V-Lowマルチメディア放送コンテンツプロバイダーの『アマネク・テレマティクスデザイン社』へ出資

事業参画企業 (14社)

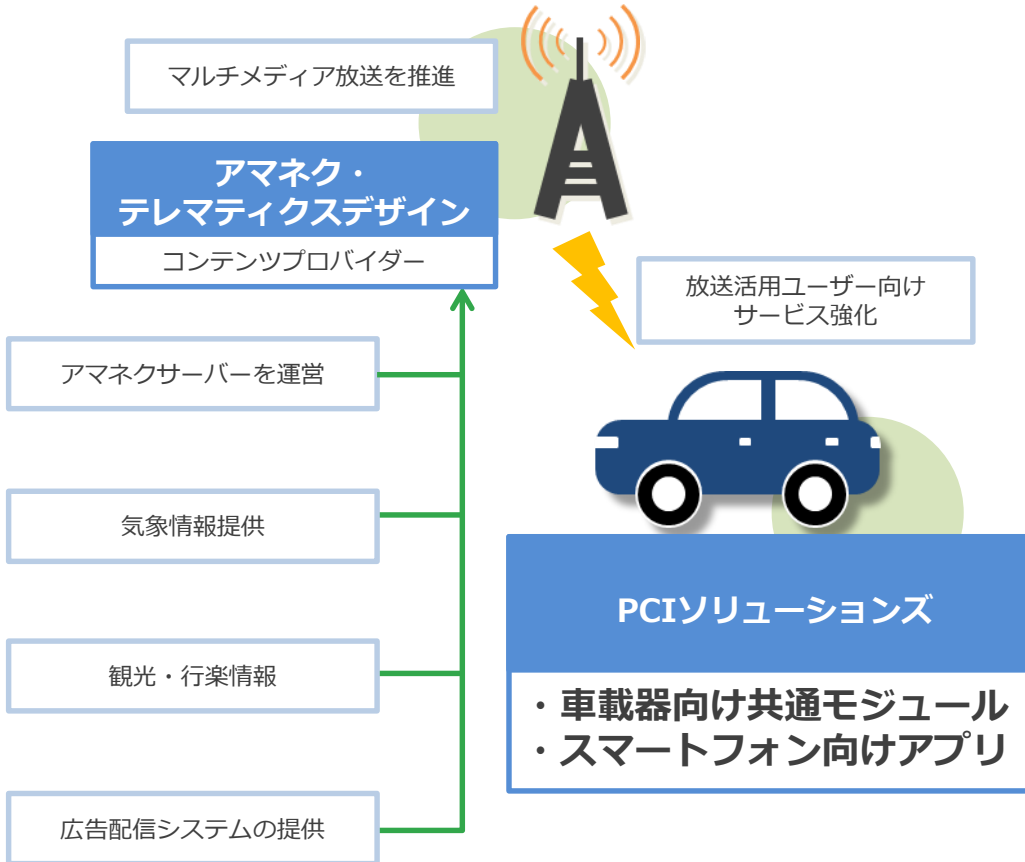
- | | |
|-----------------------|-------------------|
| PCIソリューションズ (株) | (株) アイ・トランスポートラボ |
| (株) エフエム東京 | (株) オリエンタルコンサルタンツ |
| オリックス (株) | キャンバスマップル (株) |
| シグノシステムジャパン (株) | 住友電気工業 (株) |
| (株) ゼンリン | 大日本印刷 (株) |
| 一般財団法人 日本気象協会 | |
| バイテックシステムエンジニアリング (株) | (株) シーズラボ |
| (株) ゼンリンデータコム | |



コンテンツプロバイダー

“日本初”モビリティ向けデジタルラジオ放送局
アマネク・テレマティクスデザイン社

2020年以降
 日本のコミュニケーション・プラットフォーム
 として更にエリア拡大



IoT (Internet of Things)

コンピューター等の情報・通信機器だけでなく、センサーや家電など様々な「モノ」をインターネットに接続させ、通信させることで、遠隔計測、自動認識や制御等を行うこと。

IoE (Internet of Everything)

IoTよりも広い概念。ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

フィンテック (FinTech, Financial Technology)

ファイナンスとテクノロジーをあわせた造語。ITを活用して金融、決済、財務サービスなどを生み出したり、見直したりする動きのこと。

AUTOSAR : (AUTomotive Open System ARchitecture)

車載ソフトウェアプラットフォームの仕様の名称及び自動車業界のグローバル開発パートナーシップ

V-Lowマルチメディア放送

V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V2X (Vehicle to X)

自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やモノ (X) とを通信でつなげること。

プル型・プッシュ型情報配信

プル型情報配信とは、デバイスがインターネットに繋がったサーバーに対し情報取得をリクエストしてデータを取得すること。
プッシュ型情報配信とは、サーバー側が一方向的に情報を配信しデバイスに表示する仕組みのこと。

O&M (Operation & Maintenance)

運用・保守。

デジタルサイネージ (Digital Signage)

デジタルサイネージとは、商業施設や駅、店頭、公共空間等で、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステムのこと。

オープンソースソフトウェア (Open-Source Software)

ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネット等により無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行えるソフトウェアのこと。

DFT (Design For Testability)

テスト容易化設計のこと。

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

PCI ホールディングス株式会社 グループ戦略室
E-mail ir@pci-h.co.jp

